

安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第1回)会議概要

1	審議会名	安曇野市農業農村振興計画推進委員会(第1回)
2	日 時	令和7年7月30日 午後1時30分から午後3時15分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎4階 大会議室
4	出席者	佐原委員長、小山田副委員長、降旗委員、東本委員、井藤委員、北澤委員、松田委員、安田委員、米山委員、山口委員、帯刀委員、唐澤委員、吉澤委員、柳原委員、北村委員、阿部委員、藤本委員、小林栄子委員、小林みずき委員、古幡委員
5	市側出席者	佐藤農林部長、高山農政課長、山岸農業政策担当係長、農業政策担当御子柴主査、その他農政課、耕地林務課及び農業委員会所属の事業担当係長等
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	令和7年8月12日(火)

協 議 事 項 等

- 1 会議の概要
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 新任委員の紹介
 - (4) 安曇野市農業農村振興計画推進委員会について
 - (5) 協議
 - (6) その他
 - (7) 閉会

以下、会議の特記事項について記載する。
- 2 新任委員の紹介
 - ・新たに高橋眞氏、小林栄子氏、矢野良氏の3名を委員に選任
- 3 安曇野市農業農村振興計画推進委員会について
 - ・事務局より説明
 - 【主な意見等】
 - なし
- 4 協議事項
 - (1) 令和6年度農業農村振興計画の進捗状況の点検作業と評価について
 - ・事務局より説明
 - 【委員長より関連意見として求められた意見等】

○担い手関係

- ・りんごにて新規で就農相談はあるが、現実を知ると辞めてしまう人もいる。また、独立の際に周囲より土地利用の依頼があり、急な規模拡大が破綻につながる恐れもあるため擦り合わせが課題。
- ・夏秋いちごでは新規相談はあるが、設備資材の高騰もあり借入をしても返していけるかという不安が大きい。また、ここ数年の異常気象により夏秋いちごの栽培に適さない環境になっているため、新規参入して安定収入を得るには厳しいと感じる。
- ・水稻では面積もある程度必要なので新規はないが、親元就農は何件かある。
- ・JA あづみでは担い手支援室で問い合わせあるが、なかなか就農まで至らない。
- ・若い方もいるが、退職された方に一定数農業に興味ある方がいるので支援事業を今年度から考えており、掘り起こしをしている。

・弊社では新規採用もあったが、連日の暑さ等農作業の過酷さでやめてしまう人もいる。製造業等の方が労働環境が整備されているので、このあたりが農業と他産業の差とを感じる。

○生産販売

・物産センターでは同じ農産物が同じ時期にたくさんでてしまうことが課題。天候による波もある。

・果樹をメインに取り扱っているが、一時期に比べ野菜の価格が安定してきた。野菜の農家さんは需給の状況で売れ行きが決まるので気の毒。これからりんごや桃がでてくるため期待している。

○各農産物の状況

・米不足で大豆、麦から米にシフトしている人は多い。今後どうなるかは分からないが、来年も今年と同等程度の面積になると思う。

・海外輸出はしていないが、わさびについても高温障害等発生し影響を受けている状況。

・陸わさびを栽培しており最低賃金を確保するべく何とか維持しているが、出荷基準も厳しいのでこれから増やしていくことは難しい。生産者も減っていると聞くので、専業による生産だけでなく、農福連携の推進も必要である。

・異常気象により様々な農産物に高温障害が発生している。高温対策の資材支援や指導を行っている。

・花きについて、管内ではアルストロメリアの栽培をしている方が1人いる。春先高単価であるが、高温障害で減収傾向にある。

○多面・中山間、農家民宿

・コロナで3年間農家民宿は中止になり、高齢化やモチベーションの低下もあったが、何とか盛り返そうという意識で新規の民宿が増えた。農業をやりながら民宿をやることは非常に大変なので、農家と民宿それぞれの事業者で協力して実施するなど件数を増やして行きたい。

・農村生活マイスターについて、安曇野市は1行政1支部のため活動がしやすい。近年、農政課や学校、こども園からの依頼が増えており、その機会に地場農産物や伝統食、食育について知ってもらうように話ができるため大変ありがたい。ただ、マイスターも減っているため新しいマイスターの育成が課題となっている。

・信州大学農学部の子供でも農家の子供はほとんどいない。都市部出身の学生の方が新鮮な気持ちで農業を見ている傾向がある。授業の過程で将来的な農業のネガティブな側面を知ってしまうこともあるが、若い農家さんが自分の能力を発揮して意欲的に取り組む姿は魅力的に映るので、そういった姿を発信してほしい。

○ブランドについて

・地産地消ということで農政課と協力して料理のテキストを作成するほか、親子の料理教室を開催している。昨年度はピザ作りを行い、今年度はスイーツを作る。大変好評いただいており、子供だけでなく親も興味を持っていただいている。今後も食材を身近に感じるようなことを発信していきたい。

・観光協会でも農政課や観光課の依頼を受けて SNS を通じてイベント等外部向けに情報発信を行っている。今後も色々な形で協力をしていきたい。

(事務局)

新宿マルシェについての日程等説明。

○その他意見

- ・農用地の減少について、令和6年度の急激な増加要因は何か。また、畑なのか田なのか。このまま増えていくと大きな減少になるため確認したい。
- ・事務局より農地転用実績等の説明。

(2) 第4次安曇野市農業農村振興基本計画にむけた策定方針について

・事務局より説明

【主な意見等】

なし

【委員長より関連意見として求められた意見等】

- ・SDGsに関連して、地産地消や食材の無駄を削減する取り組みを推進し、子供向けの料理教室でSDGs意識を高めたい。
- ・トマトやケールなどで格別のものは乾燥して販売する工夫をしているが、それでも無駄にしているものもあるので少し傷んだものを使ってくれるルート等があると嬉しい。
- ・学校生活全般においてSDGsを普及したいと思っている。(7)の地域特性を十分に踏まえた本市の農業農村活性化というところで子供向けのイベントを市で行うことも、子供たちの関心や学べることがあるのではないかなと思う。
- ・豊科農産物加工センターでは1月にアンケートを取って豆腐等の加工をしているが、SDGsについてはあまり考慮できていない。
- ・SDGsの観点では、豊科の学校でせせらぎを使ってわさびの種を植えて、生育、収穫までを行って、給食の時に擦って食べてもらっている。子供たちにも驚きや発見があり、今後安曇野市で育つ子供たちに知ってもらうことはいいことだと思う。
- ・子供たちも野菜がどのように育ち、どのように収穫されるかほとんど知らない。そういったところから知ってもらうことはすごく大事である。そういった触れ合いの機会を増やしていきたい。
- ・格別商品は通常商品よりも量を多めに販売している。それでも余ったものは冷凍して加工用のおやきの具や漬物にしている。大根も切干大根に加工できるように、乾燥時間等を研究している。
- ・規格の良いものは贈答や規格品として出荷されるので、取扱いは下級品が主になっている。直売所として、生産者の手取り向上のため販売をしている。価格高騰もあり、昔に比べて家庭用としての発送依頼も増えている。

○鳥獣害対策

- ・山際ではよく被害を聞いている。サルだけでなくクマも出ているため油断できない。
- ・三郷小倉ではサルの被害はないが、空き家が増えているせいかハクビシンが多く出ている。自分のところに害がないから良いというわけではなく、同じ地域として対策を考えていきたい。
- ・リンゴはヒヨドリの被害がある。鷹の模型で対策したこともあるが、慣れてしまうと効果が薄く、いたちごっことなっている。研究機関等でドローンを使うなど、画期的な対策

が見つければ良い。

・SDG s にもある持続可能な社会の実現には農業は欠かせない。重点課題としている「安曇野の田園風景を農業者と市民の共通の価値として捉え」というところで醸成を図り、農地や農業、地下水を維持していくために議論を深めていけたら良い。

(3) 第4次安曇野市農業農村振興基本計画にむけたアンケートの実施について

・事務局より説明

【主な意見等】

なし

【委員長より】

・アンケートの対象者について、農村生活マイスターや農業法人の従業員、農業高校や信州大学など、今後農業を担っていく方を対象にする等検討してもらいたい。

・農業を産業でなく、生活の一部として取り入れたいという人が増えている。そのため、そういった兼業農家や趣味で農業に関わりたいという方の考えも取り入れていく必要があるのではないか。

【委員長より関連意見として求められた意見等】

・穂高に移住した方で直売所に出荷している人がいるが、本業でなく楽しみながら農業に触れている。そういった方がいるという認識を持つことも大事。

・農家民宿に来る学生も農業をやってみたいと言ってくれる子もいる。また、移住相談を受けることもあるが、なかには移住後に農業をやりたいという人もいる。農業用設備や住むところなど課題もあるので正直な話をしているが、農業は楽しいものという良い印象が広まってくれることを期待している。

・JA あづみでは就農体験を4回行っている。県外から夫婦での参加が多く、とりあえず触れてみたいという方が多いが、なかにはすぐに就農相談する方もおり、今後は増えていくのではないか。とりあえず、少し農業をやりたいという相談もある。

・先ほど話した定年者への掘り起こし等、夢づくりサポート事業として何かしなければと研究している段階。定年者が60歳くらいであってもまだ20年以上人生があるので、1つのきっかけづくりとして支援している。いずれ担い手になってくれたらという思いもある。

・アンケートについて、国の調査等は無造作に選ばれるイメージがあるが、例えば就農から何年以内の農業者や補助金をもらっている農業者全員等、ある程度基準を決めてやったらかどうか。また、委員長から先ほど話が合った農家以外を対象者にするのも良いと思う。

また、農業に触れ合う機会を増やしてもらえたら協力できると思う。別の事業同士で実は繋がりがあったということもあったので、うまく活用しながら発信できたら良い。

・農産物を使う側として、今年度の玉ねぎは根が腐っているものが多かった。異常気象のせいなのかどうなのか。

・安曇野市でブランドとして量を多く作っているが、選果機(乾燥機)が動いていないと聞く。山積みになり腐ってしまっているのか。

・今年は物産センターでも量が少なく、個数を限定して販売した。個人的に玉ねぎ祭りで玉ねぎを購入したが、半分くらいが芯のところから腐ってしまっている。

・今年は玉ねぎの病気がまん延している。根から腐っていくもので、収穫後少ししてから症状がでるほか、見た目ではなかなか判断ができない。

4 その他

- ・第2回の委員会は令和7年9月1日（月）13時30分～今回と同会場にて開催

以上